

桜蔭俳話会 十月句会(第三〇九回)

鎌倉(円覚寺及びその周辺)にて吟行を実施

(吟行後の句会は鎌倉生涯学習センター)

平成二十四年十月二十八日(日)

3点 雲竜の駆ける天井そぞろ寒 明美

蘇生治療終へし大樹の天高し ツル子

隧道のみ跡深しそぞろ寒 友子

2点②歳月の水の蒼さよ寺の秋 守

①洞門の鑿跡まろし秋澄めり ヤエ子

黄梅院の垣に溢れん式部の実 幸

これよりの円覚寺領からすうり 守

風情ある門に沿う垣花芒 幸

杜鵑草総員退避の細き道 ヤエ子

1点①野仏のひそむ山道草紅葉 友子

①鎌倉や源平菊の門出づる 守

①鑿跡の小さき洞門みなしくり虚栗 守

塔頭の木魚響けり秋深む 友子

リハビリの階段高し秋の寺 守

秋日浴ぶ石の観音深き黙 明美

山門の梁の亀裂や秋の風 守

上皇の御真筆とや秋の声 幸

新米の焦げの匂ひや秋の道 ヤエ子

しやれ文字でならいどころと紅葉かな 真三

苔むして走り根先の白き萩 ツル子

山門の木組み確かや小鳥来る 友子

洪鐘の音なき時間からすうり 守

洪鐘を囲う古板秋寂びて 幸

電力計神社のへいに埋込まれ 真三

鐘楼の古き囲いの冬隣 ツル子

秋風やゆつくり上る寺の山 守

秋冷や靴紐ボタンしめ直す 幸

街守る石の三猿石露の花 ヤエ子

※二層の屋根やひとすぢの秋の雲

明美

松の苗添え木に雨の秋深し ツル子

水の秋真白き鯉の口暗し 守

秋の風言霊われを離れけり 守

熱缶を転がす双手駅階段	ヤエ子
秋の海澄みいたりし宮の先	真三
トンネルの出口の先の烏瓜	友子
鯉のむれ波紋に遊ぶ秋の風	ツル子
鎌倉の路地の狭さや石露の花	友子
白龍のにらむ世相や秋の闇	幸
何にする夕餉のメニュー秋吟行	ヤエ子
宮を見て登りし山に秋の風	真三
真白なる石の観音吾亦紅	守
秋深し葉擦れの音や仏日庵	幸
晩秋の塔頭なべてくすみけり	明美
脚力を試さる大寺薄紅葉	明美
数珠玉や北鎌倉の線路沿い	友子
今年米わざわざ焦がす土鍋かな	守
秋冷の山門彫刻千社札	幸
婆の指す炉びらき椿小さきや	ヤエ子
秋登る鎌倉一の鐘を見る	真三

(不在投句 古野明美)

「事務局より」

◎通信句会を実施します。同封のはがきで作品をお送りください。

・締切り 十一月十日(土)

・句数 秋に属する季語を用いた三句